

資料-2

第23回平取ダム地域
文化保全対策検討会
令和5年3月29日

第23回 平取ダム地域文化保全対策検討会

「地域文化に係る調査・検討」について

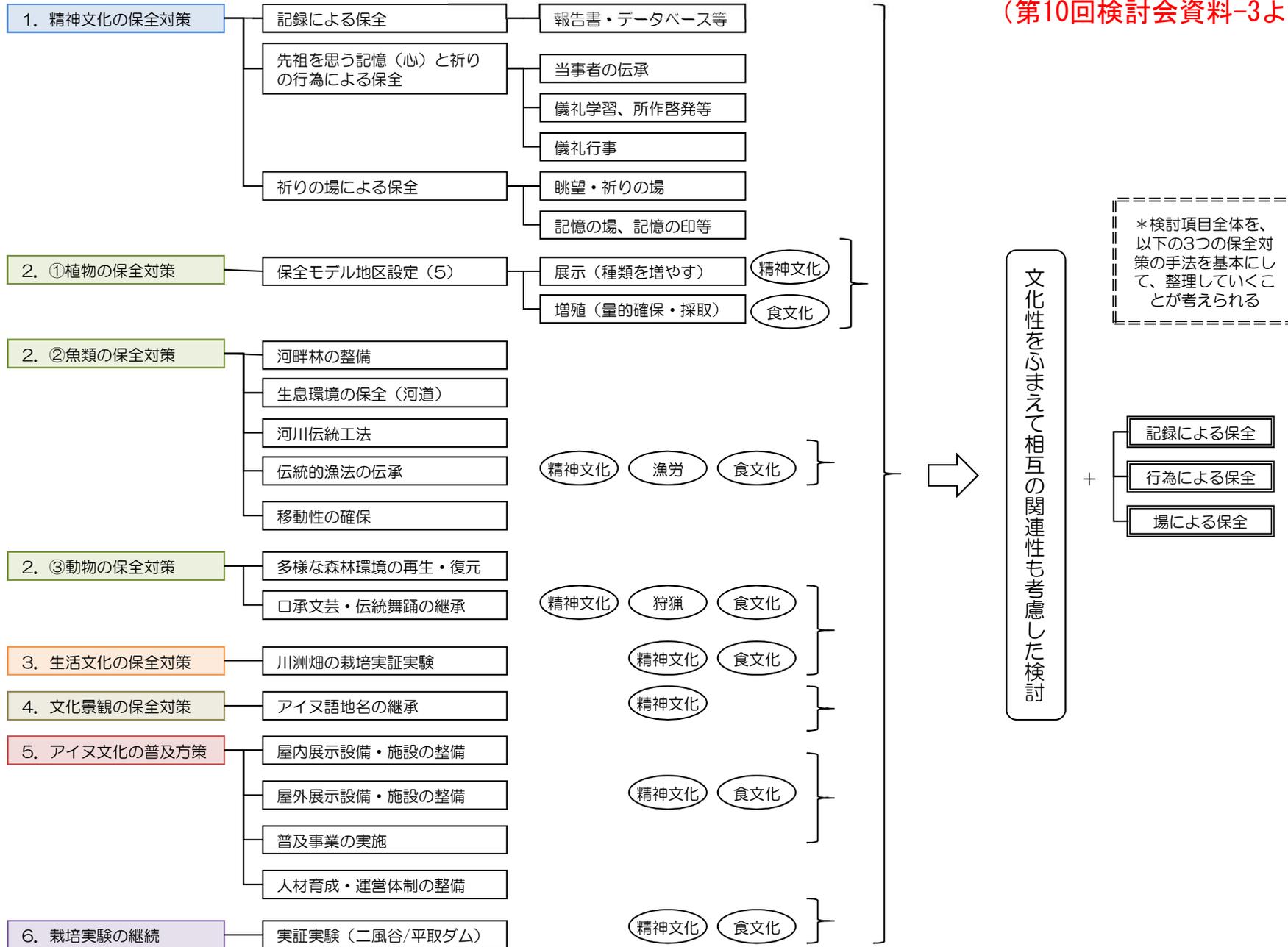
令和5年3月29日(水)



イランカラッパ
「こんにちは」からはじめよう。

保全対策の実施内容

(第10回検討会資料-3より引用)



地域文化に係る調査・検討の流れ

アイヌ文化環境保全対策調査委員会(平取町設置)

○平成15年5月～平成18年3月

地域文化に係る保全対策の基本的考え方の検討
(総括報告書 2006年3月)

平取ダム地域文化保全対策検討会(室蘭開発建設部設置)

1. 地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

○平成18年8月～

検討項目	調査・検討・実施内容
精神文化の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・保全対象地や所作に関する情報収集、意向調査の実施 ・現地でのカムイノミの実施 ・眺望・祈りの場、フットパスの整備内容の検討 等
生物の生存環境の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・有用植物保全モデル地区の設定 ・有用植物移植後のモニタリング ・伝統漁法の試行調査 等
生活文化の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・川州畑実証試験地の設定、及び実証試験の実施
文化景観の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ語地名データベースの構築 ・アイヌ語地名パンフレットの試作 ・橋名板の設置 等
アイヌ文化の普及方策	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外展示の整備内容の検討 等
栽培実験の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアル(案)の作成 ・二風谷地区育苗畑、有用植物保全モデル地区での栽培実験の実施

第1回
} 第14回

中間とりまとめ

第15回
平成26年3月18日(火)

2. 地域文化に係る保全対策の具体化と実施

第16回
平成26年9月25日(木)

令和4年7月 平取ダム供用開始

3. 地域文化に係る保全対策のモニタリング調査の実施

第23回
令和5年3月29日(水)

最終とりまとめ

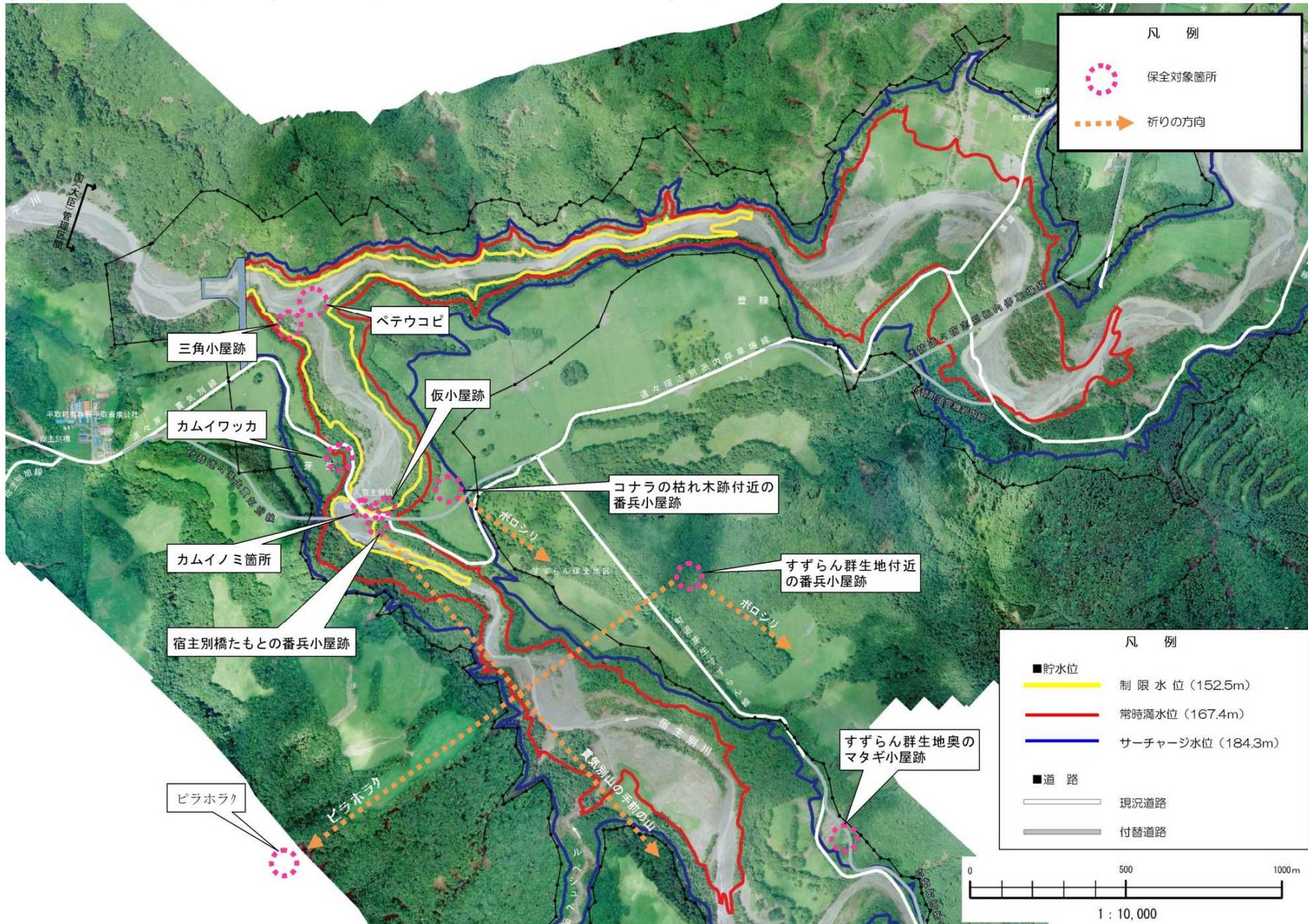
検討項目

- 1 精神文化の保全対策
- 2 生物（植物・魚類・動物）の生存環境の保全対策
- 3 生活文化の保全対策
- 4 文化景観の保全対策
- 5 アイヌ文化の普及方策
- 6 栽培実験の継続

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

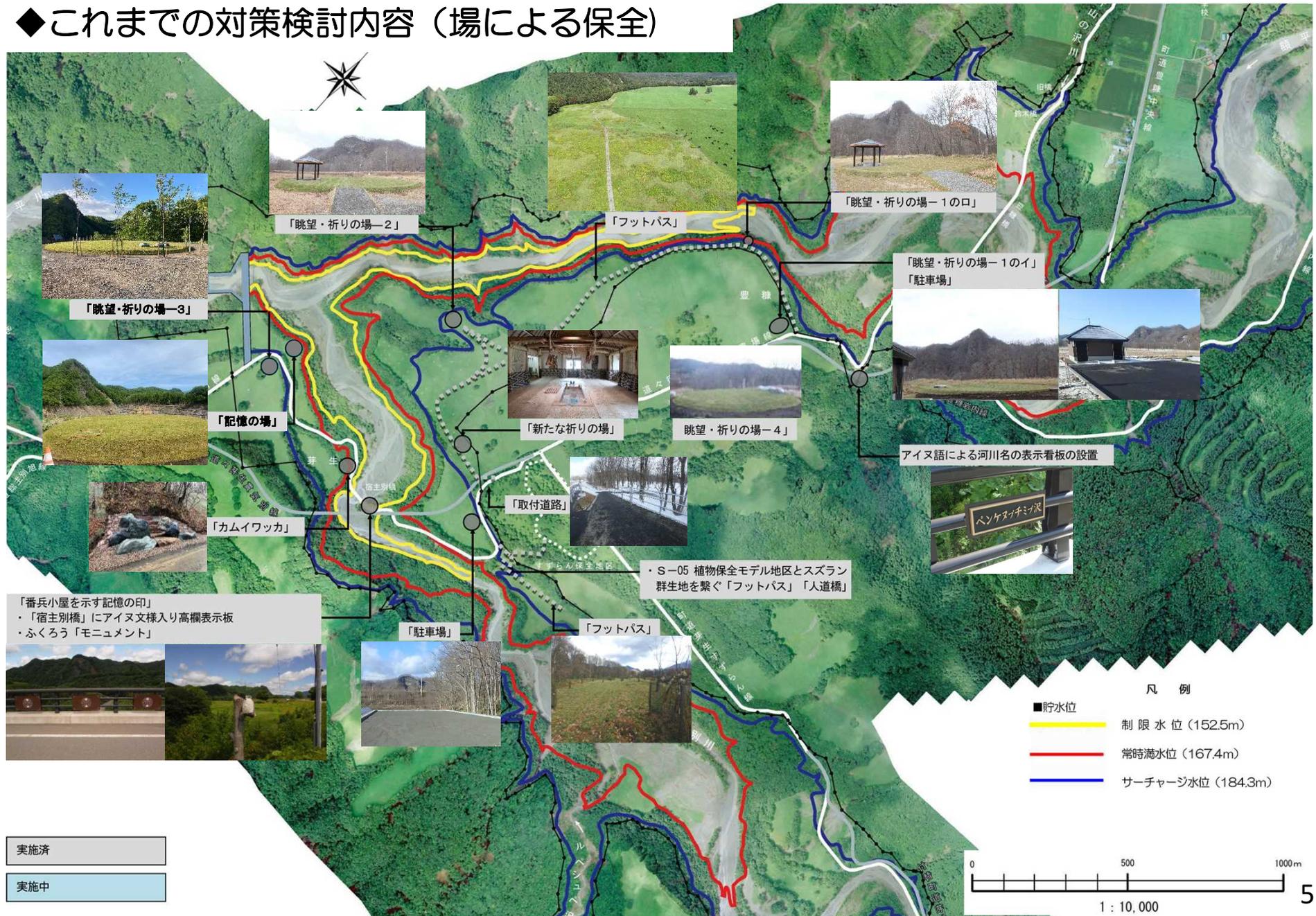
◆精神文化に係る保全対象位置図(平取ダム事業用地・周辺)

(第15回検討会資料-2より引用)



令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

◆これまでの対策検討内容（場による保全）



令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

1. 精神文化の保全対策

・ 祈りの場による保全

《新たな祈りの場の活用について》

- ・ 新たな祈りの場（ノカピラ アシッチセ）にてカムイノミを実施。
- ・ 今後は一年を通じカムイノミ等の儀礼、伝承活動やアイヌ文化体験学習等に活用する。



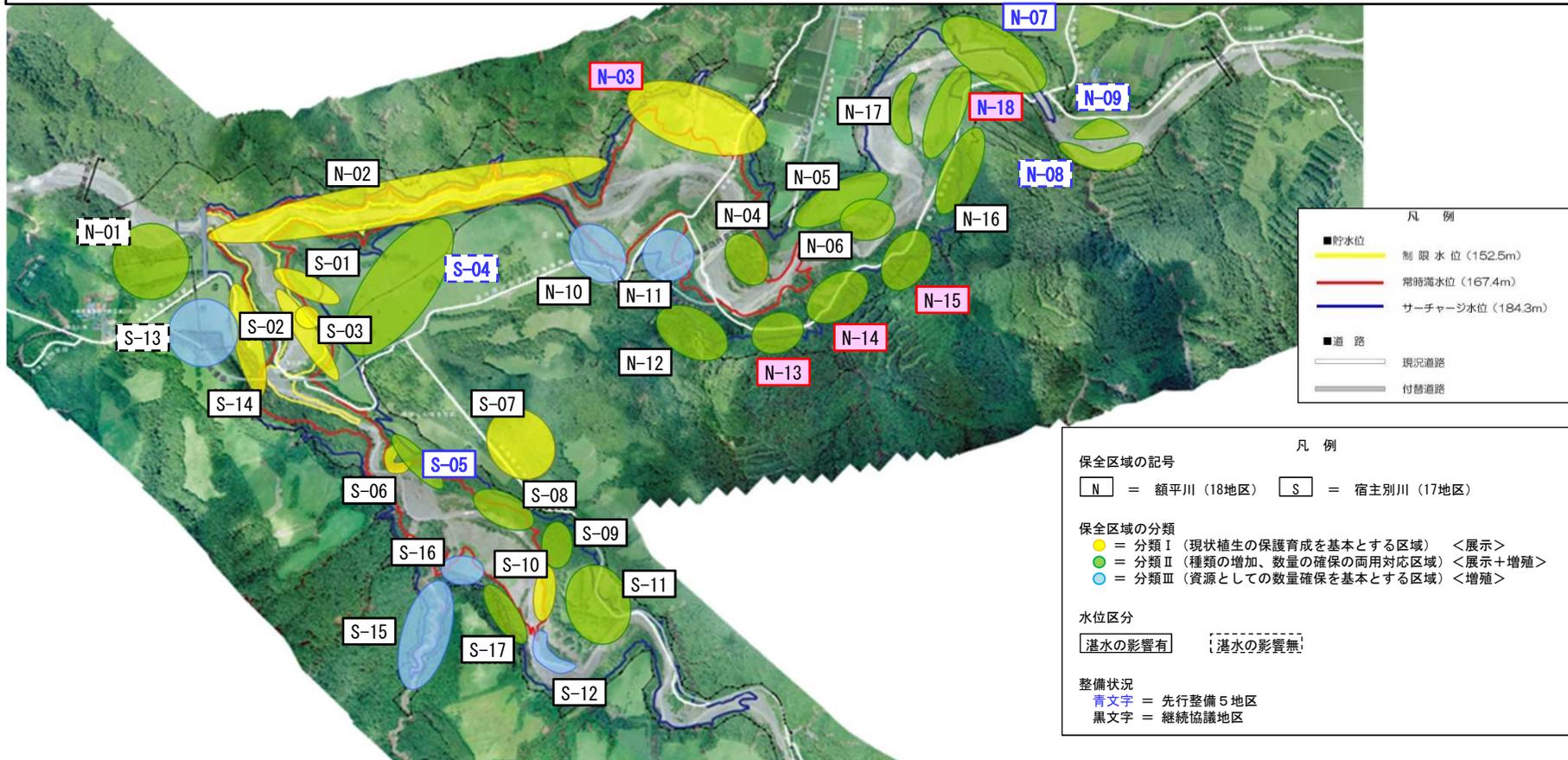
カムイノミの実施

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. 生物の生存環境に係る保全対策の検討

・有用植物保全区の整備状況とモニタリング調査について

- 先行的に整備を実施している5地区（湛水の影響の少ない）は、圃場の整備や栽培、植栽等を実施。その他の地区は、湛水の影響や植物の再生状況等をモニタリングしながら、継続的に保全方針を協議し保全対策を進める。
- 令和4年度は試験湛水後の状況を把握するため、試験湛水後に土砂の堆積や植物の再生を観察する試験地として位置付けられているN-13、N-14、N-15の3地区、ガマ増殖試験区N-03、N-18の2地区のモニタリング調査を実施。



令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. 生物の生存環境に係る保全対策の検討

・有用植物保全区の整備状況とモニタリング調査について

- ・ N-13、N-14、N-15のいずれの地区も、水没した範囲の樹林は一部が消失し、残った樹林も倒木による疎林化や上部の折れによる高木林から低木林への変化がみられた。

地区名	保全整備区分	整備方針	試験湛水前後の比較
N-13	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の植生を基本的に維持しながら、額平川沿いの植物相を生態展示する林帯とする。 ・工事終了後に自然回復を待ち、状況に応じて移植等の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験湛水により一時水没する区域は、土砂の堆積や植物の再生を観察する試験地として環境変化のモニタリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町道豊糠岩内線より額平川の区域は、広い範囲が水没し、樹林の一部が消失していた。残った樹林も倒木による疎林化や、上部の折れによる高木林から低木林への変化がみられた。 ・町道より山側にある林道造成地には、試験湛水前にはほとんど植生がみられなかったが、オオアワダチソウ、エノコログサ、ミヤコグサなどの草本類やエゾノキヌヤナギ、オノエヤナギなどの木本類が生育していた。また、過年度にはみられなかった外来種のシロバナシナガワハギが確認された。 ・町道沿いの林内に確認されていた小規模な湿性草地は、樹木は消失していたもののガマは開花結実しており、湿性草地が維持されている状況にあった。 ・水没していない区域に位置する針葉樹の植林地とミスナラ-イタヤ群落には大きな変化はみられなかった。
N-14	<ul style="list-style-type: none"> ・水生植物・水辺植物の多様性を増やし生態系展示しつつ、人々を植物観察・探訪にいざなう。 ・池に土砂流入の影響が見られ、湿生植物が生育途上にある。手を入れず自然回復を待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験湛水により一時水没する区域は、土砂の堆積や植物の再生を観察する試験地として環境変化のモニタリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町道豊糠岩内線より額平川側では、水路周辺の樹林が消失し、オオアワダチソウやササの生育する乾性草地とミゾソバやツルヨシが生育する湿性草地となっていた。また、町道沿いの斜面地のミスナラ林は、法面の崩落により斜面中段～下段の樹木が根返りしている状態にあった。 ・残土置き場は、試験湛水前に裸地であった場所がヤナギ低木群落やオオイヌタデ、オオヨモギ、ヒメムカシヨモギなどが生育する草地となっていた。その一部では、水が溜まり、マツバイ、ヘラオモダカが生育するほか、重要種のイトモや抽水植物のサンカクイが新たに確認された。
N-15	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の植生を基本的に維持しながら、額平川沿いの植物相を生態展示する林帯とする。 ・土砂流入の影響で林床が埋まり、実生が多く確認されることから、自然回復を待ち、植物再生の遷移の観察を行う。 ・これにより、整備のあり方を改善していくための参考とするとともに、自然の遷移を理解するための教育的な場およびデータとして活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験湛水により一時水没する区域は、土砂の堆積や植物の再生を観察する試験地として環境変化のモニタリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町道豊糠岩内線より額平川側は、オオアワダチソウが優占する草地が広がり、湿った場所にミゾソバやオオカサスゲ、コウヤワラビ、ミヤマニガウリ、ツルヨシなどが生育する草地となっていた。樹林地は、ヤチダモ、ハルニレ、カツラなどが点在する林とヤナギ高木、低木が混在する林であった。 ・町道より山側のハルニレ-ヤチダモ群落は、上層にはほとんど変化が見られなかったが、林床にミツデカエデなどの木本の実生が多数生育し、草本類がまばらになるなどの水没による影響が認められた。一方、針葉樹の植林地とミスナラ-イタヤ群落は水没しておらず、試験湛水後の大きな変化はみられなかった。

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. 生物の生存環境に係る保全対策の検討

・有用植物保全区の今後の取組みについて

- ・材料としての有用性・必要性の高い主な有用植物を中心に保全・増殖の取組みを実施。

植物名	主な用途	対象保全区	これまでの保全対策と今後の取組み
シキナ（ガマ）	トマ（ござ） カロブ（火打ち 用具入れ） エニヌイベ（枕）	S-04	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地を造成しガマの増殖試験を実施。 ・今後も、刈取り管理や補植を行い、持続的な供給地として活用する。
		N-03	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地形成を目指し、R1に造成工事を実施。 ・今後は、播種や苗植え等の半栽培により持続的な供給地として活用する。 ・R4現在、湿生植物が点在するが、まとまった規模の池の形成、ガマの生育には至っていない。
		N-04～N06	<ul style="list-style-type: none"> ・播種・苗植えによる増殖試験を実施。 ・今後は、流水や冠水により形成される自然環境に応じた水生植物の生育を促す。 ・R4現在、N04のガマは土砂流入により消失、上流側掘削跡地の池にわずかに点在。
		N-18	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地形成を目指し、R2に造成工事を実施。 ・今後は、播種や苗植え等の半栽培により持続的な供給地として活用する。 ・R4現在、沢水の湛水は少なく外来植物のオオアワダチソウ群落が広がっている。
スプキ（ヨシ） シキ（オギ）	チセの屋根材・ 壁材	N-08・N-09	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ・オギの増殖試験を実施。 ・今後も既存のヨシ群落が自然に拡大するよう、刈取りや捕植等の管理や検討を継続し、素材の供給地として活用する。
		S-10 ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・自生地の回復状況のモニタリング調査を行い、素材供給地として活用する。
アツニ （オヒョウ）	アットウシアミ ブ（着物） アットウシクツ （帯） カロブ（火打ち 用具入れ）	S-05	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木植栽や移植により半栽培を継続的に実施。 ・今後も増殖と管理を継続し素材供給地として活用する。
		S-04	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽（生態学的混播混植法）を実施。 ・今後もモニタリング調査を行い、素材供給地の形成を目指す。
		S-11	<ul style="list-style-type: none"> ・移植および植栽（生態学的混播混植法）を実施。 ・今後もモニタリング調査を行い、素材供給地の形成を目指す。
チクペニ （イヌエンジュ）	チセコロカムイ （家の守護神）	S-05	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木植栽や移植により半栽培を継続的に実施。 ・今後も増殖と管理を継続し素材供給地として活用する。
その他の有用植物 チキサニ（ハルニシ）、ピンニ（ヤチ ダモ）、フンカウ（ハシドイ）など		N-02・N-07 S-01～03・08～12	<ul style="list-style-type: none"> ・湛水の影響を受けない範囲は、現状の保全を基本とし、必要に応じ下草刈り等を行う。 ・湛水範囲内は、土砂の堆積状況や植物の再生状況のモニタリング調査を行い、保全方法について継続的に検討を進める。
		N-01・N-10～17 S-06～07・13～17	<ul style="list-style-type: none"> ・工事実施箇所および湛水の影響を受ける範囲について、自然回復状況や植生の変化を継続的にモニタリング調査を行い、必要に応じて捕植等の対策を行う。

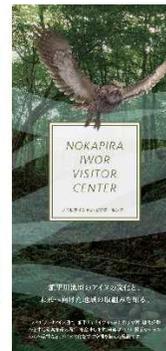
令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

5. アイヌ文化の普及方策

・ダム供用開始後におけるデータの活用方針について

蓄積されたデータの活用方針

- ・ 保全対策の取組みについてホームページや資料室を活用した紹介
- ・ 保全対策の取組みおよび蓄積したデータを紹介するパンフレット作成など、積極的な広報活動の展開
- ・ データベースをもとにした体験ツアーガイドブックの作成など、文化普及活動へのより一層の有効活用
- ・ 保全対策に係る調査の継続と蓄積によるデータベースの充実



保全対策の取組みに関する
パンフレットの作成

子供向け解説
パンフレットの作成

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

5. アイヌ文化の普及方策

- ・ノカピライウォロビシターセンターの活用について
- ・計4回のイベントを実施



平取ダム周辺散策体験会 (10/26)



インバウンド観光人材スキルアップセミナー (11/9)



平取ダム周辺自然体験会 (12/17)



北海道大学アイヌ・先住民研究センター
国際シンポジウムピラトリエクスカーション (1/19)

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

その他の各保全対策の実施状況

1. 精神文化の保全対策

- 先祖を思う記憶（心）と祈りの行為による保全
 - 伝統的漁法や川洲畑の実証試験に伴う儀礼行事の実施



川洲畑（宿主別）での播種前の儀礼（5/25）



アベツ川さけ特別採捕獲の儀礼（10/20）

2. ①植物の保全対策

- 保全モデル地区設定
 - 工事箇所における有用植物の調査・移植後のモニタリングを実施



平取ダム周辺試験湛水後の植生調査（7/13）



ススキ（ヨシ）・シキ（オギ）栽培試験地モニタリング（11/22）

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. ②魚類の保全対策

- 伝統的漁法の伝承
 - 伝統漁法の漁具や漁法の再現



伝統的漁具の製作 (10/1)



伝統的漁法の再現 (11/15)

2. ③動物の保全対策

- 多様な森林環境の再生・復元
 - 多様な森林環境を再生・復元し、生息環境の調査を実施

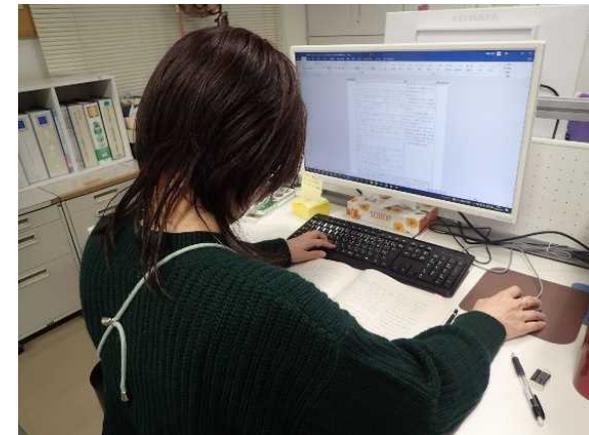


トレカム (自動撮影カメラ)
カード交換 (8/17)



トレカムで撮影された動物 (10/28)

- 口承文芸の継承
 - 沙流川流域で継承されている口承文芸等の動物に係る内容を抽出し整理



文献調査

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

3. 生活文化の保全対策

- 川洲畑の栽培実証実験
 - 川洲畑再現マニュアルに基づく、川洲畑実証試験の実施



宿主別試験畑播種作業 (5/25)



紫雲古津試験畑収穫体験
(貫気別小学校5、6年生) (9/14)

4. 文化景観の保全対策

- アイヌ語地名の継承
 - 額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレットを活用した体験学習の実施



アイヌ語地名マップ、データベース更新



アイヌ語地名学習会 (10/1)

令和4年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

5. アイヌ文化の普及方策

- 人材育成・運営体制の整備
 - アイヌ文化体験プログラム(案)を用いて小学生を対象とした体験学習を実施



貫気別小学校アイヌ文化学習
(5・6年) (他4回)



平取小学校でのアイヌ文化学習
(2・3年生) (2/6)

6. 栽培実験の継続

- 実証実験
 - 植物栽培マニュアルに基づき、有用植物の移植試験及び播種栽培試験の実施



イワトペニ (ヤマモミジ) の種子採取 (7/11)



シキナ (ガマ) の移植作業 (9/21)

地域文化保全対策の今後の進め方

・ダム供用開始後における調査・モニタリング（案）について

精神文化の 保全対策

- ・保全対策に係るモニタリング調査を行い、データベースを継続的に蓄積していく
- ・フットパスや眺望・祈りの場を活用したアイヌ文化体験学習などを実施していく



カムイノミ等の儀礼

生物（植物）の 生存環境の保全対策

- ・工事個所の植生回復や移植樹の生育状況を継続的にモニタリングしていく
- ・有用植物の半栽培を継続するとともに、展示（標本林）への利用を展開していく
- ・栽培した有用植物を利用し、材料活用（道具加工）の取組みを継続していく
- ・植物保全区について試験湛水等の影響をモニタリングし、保全・整備について継続的に実施していく



植物のモニタリング

生物（魚類・動物）の 生存環境の保全対策

- ・関係機関との調整を図りつつ伝統的漁法の再現等の取組みを継続していく
- ・関係機関と連携し、沙流川流域全体での魚類生息環境の保全を継続する
- ・定点カメラによる動物の種類や個体数、行動の記録を継続する



伝統的漁法の再現

生活文化の 保全対策

- ・川洲畑試験の取組みを継続する
- ・食文化レシピ集や川洲畑再現マニュアルの継続的な更新を進めていく
- ・川洲畑実証実験や収穫物を利用した食文化の試行を、体験学習やエコツアーと合わせて継続的に実施していく



食文化試行

文化景観の 保全対策

- ・沙流川流域全体のアイヌ語地名データベースの継続的な更新を進めていく
- ・アイヌ語地名データベースを活かした広報資料作成（パンフレット等）に取組む
- ・アイヌ語地名看板の整備を継続していく



アイヌ語地名マップ
データベース更新

アイヌ文化 普及方策

- ・地域文化の調査を継続すると共に活動を紹介するリーフレットを更新していく
- ・教育委員会と連携し、蓄積した調査結果を活用した授業を実施していく
- ・体験プログラム実施の担い手の人材育成に引き続き取り組んでいく
- ・新たに整備された展示施設を活用し、体験プログラムや文化紹介に取組む



アイヌ文化体験
プログラム試行

栽培実験の継続

- ・育苗畑や有用植物保全モデル地区を体験プログラム等に活用しながら、材料採取の栽培実験に取り組んでいく



苗木づくり